

経済学部・経営学部

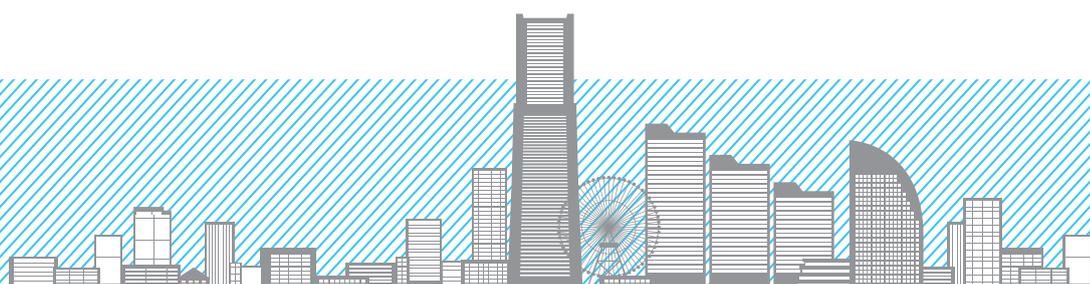
連携教育プログラム

» 経済学部 **DSEP**

» 経営学部 **DSEP**

» **LBEEP**

» **GBEEP**



経済学、経営学、法学・政治学を駆使して、 新しい時代を創るリーダーを目指しませんか？

現在、グローバル化が進展すると同時に、仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会（日本政府では“Society 5.0”と呼んでいます）へ向かって大きく変化しています。経済と経営と法律の専門性を持って国際的に活躍できること、データに基づいた高度な分析と意思決定ができること、率先して広く社会貢献をすること、が強く求められているのです。

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University
Initiative for
Global Arts & Sciences

4つの教育プログラム

これらのプログラムでは、経済学部・経営学部で学ぶ通常の授業に加えて、目的ごとに特別な教育を受けることができます。

» 経済学部 DSEP

ディーセップ; Data Science Education Program

経済社会の課題を統計分析の手法を用いて解決できるようになるため、経済学の専門性と情報処理・統計分析能力の融合により、新たな価値創造能力を身に付けます。

» 経営学部 DSEP

ディーセップ; Data Science Education Program

企業経営における課題について、カンやコツではなく、科学的に意思決定できるようになるため、経営学の専門性と情報処理・統計分析能力の融合により、新たな価値創造能力を身に付けます。

» LBEEP

エルビーブ; Lawcal Business Economics Education Program

様々なアプローチから実社会の問題を解決するため、法学・政治学と経済学・経営学を学び、データサイエンスの基礎も修得し、エビデンスに基づく課題解決能力を身に付けます。

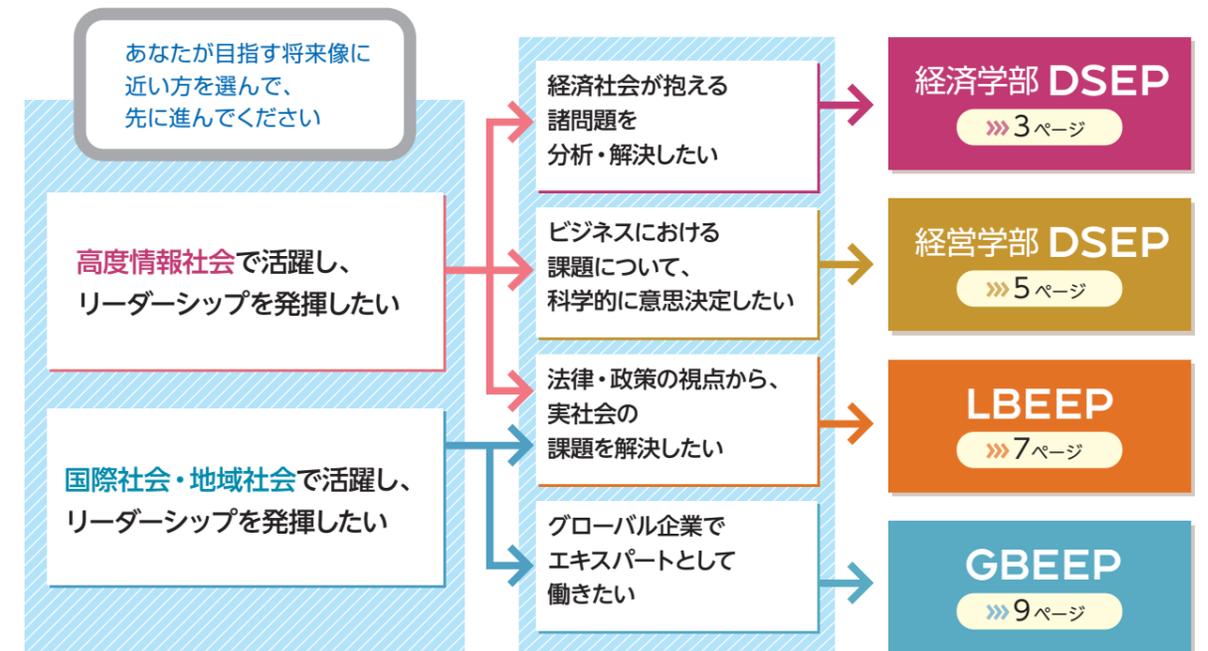
* Lawcal は、地域 (local) と法 (law) を組み合わせた造語です。

» GBEEP

ジービーブ; Global Business and Economics Education Program

グローバル企業でエキスパートとして活躍するため、「経済学と経営学の両方の専門性」と「英語による実践的なコミュニケーション能力」を身に付けます。

教育プログラムを選ぶヒント



よくある質問

「経済学と経営学の違いは何ですか？」

経済学は経済現象（財貨・サービスの生産・交換・消費）についてその法則性や制度等を研究する学問、経営学は主に企業経営（戦略・組織・会計・意思決定）を対象に管理方法等を研究する学問です。

「一般のプログラムとの関係は、どうなっているのですか？」

経済学部・経営学部で開講される多くの授業を一般のプログラム生と一緒に受けますが、ここでご紹介した4つの教育プログラムに沿った特別授業や少人数教育もあります。詳細は、次ページ以降を参照してください。

経済学とデータサイエンスの融合により社会ニーズに即した人材を養成

経済学部 DSEP

Data Science Education Program (DSEP-Econ.)
経済学部・経営学部連携教育プログラム

数理・データサイエンスの重要性が高まる中、2021年4月、経済学部は教育プログラム(EP)を新設し、今日的な社会ニーズに即した人材養成を行います。



Data Science Education Program

本プログラムの2つの特色

1 2つの専門性

経済学の専門性を修得し、情報処理・統計分析能力も身につけることによって、社会が求める専門能力と統計処理能力の両方を兼ね備えた人材を育成します。

2 5年一貫教育

学部4年と博士課程前期1年の5年一貫教育を選択することができます。5年一貫教育を通じて修士号を取得し、即戦力として企業や官公庁で活躍できる人材を輩出します。

科目一例

データサイエンス科目

既存の経済学部科目と並行して、データサイエンス科目を履修し、情報処理・統計分析の基礎的な能力から発展的な能力までの獲得を目指します。



- データサイエンス・リテラシー科目
データサイエンス・リテラシーI・II
- データサイエンス・ベーシック科目
マイクロデータサイエンス、マクロデータサイエンスなど
- データサイエンス・コア科目
中級マイクロデータサイエンス、中級マクロデータサイエンスなど

教員メッセージ



古川 知志雄
担当科目：
マイクロデータサイエンス

「学んで思わざれば則ち^{くら}罔し」とあるように、体系の確立された学術的知と、混沌不可思議な世界の事象とに、ともに向き合って、それらを衝突させて、自分の技術と理解と習慣とを磨いていってほしいと願っています。

4年間の学びのプロセス

1年次

経済学とデータサイエンスの基礎を学びます。

専門基礎科目 (科目例)

マイクロ経済学入門/マクロ経済学入門/グローバルエコノミー入門 など
データサイエンス・リテラシーI・II など



2年次

経済学とデータサイエンスの基幹的な科目を履修します。2年次からインターンシップへの参加が推奨されます。

専門基幹科目 (科目例)

マイクロ経済学/マクロ経済学、現代経済システム/経済政策 など
マイクロデータサイエンス/マクロデータサイエンス/数理統計/計量経済学 など



3・4年次

「経済数量分析」分野を主専攻として、経済学とデータサイエンスを組み合わせた発展的な学習に取り組みます。

専門応用科目 (科目例)

中級マイクロデータサイエンス/中級マクロデータサイエンス/中級数理統計/中級計量経済学 など
演習(ゼミナール)/インターンシップ
※5年一貫教育によって修士の学位を取得することを目指す学生は、学部4年次に大学院共通科目を最大22単位まで受講できます。
※学部3年次までに学部卒業単位の大半を修得した優秀な学生のみが、5年間で修士の学位を取得することができます。

Q & A

- 1 経済学部 DSEP は、経済学部の一般の教育プログラムと比べて、授業の取り方などはどのように異なりますか？
●● 卒業のための必要単位数は一般プログラムと変わりませんが、専門基礎科目、専門基幹科目、専門応用科目といった科目群の中で、修得すべきデータサイエンス科目の単位数が決められています。
- 2 卒業後の進路はどのように想定されていますか？
●● マクロデータや金融データを分析・活用して、政策提言や市場予測等に貢献する人材を輩出することを想定しています(金融機関、総合商社、製造業、研究機関など)。もしくは5年一貫教育による大学院への進学を想定しています。

それ以外の質問についてはこちら



日本初！国公立大学の経営・商学部によるデータサイエンス教育プログラム

» 経営学部 DSEP (DSEP-Biz.)

Data Science Education Program
経済学部・経営学部連携教育プログラム

2021年4月、横浜国立大学経営学部に国公立大学の経営・商学部では日本初となるデータサイエンス教育プログラム「DSEP(ディーセップ)」が新設されます。DSEPでは、データ分析テクノロジーを課題解決や事業創造に活かすビジネス・リーダーの育成を目指します。



Data Science Education Program

本プログラムの2つの特色

1 実践に重きを置いた
ビジネス・リーダー育成教育

- ①入学直後の1年次春から始まる2名の指導教員によるデータ分析を活用したプロジェクトベースの少人数ゼミナール*
- ②データサイエンスに携わる企業との連携講義
- ③インターンシップなど、実践に重きを置いたビジネス・リーダー育成教育を展開します。
(*経営学部の一般プログラムでは少人数ゼミナールは2年次秋から開始)

2 3つの力を身に付ける

- これからのビジネス・リーダーには、
- ①データ分析手法を理解し、道具として使う力だけでなく、
 - ②困難な課題を解決できるスキルと、
 - ③経営課題を見抜くビジネスに関する高度な知識が必要と考え、実践的データサイエンス教育と経営学部の豊富な講義科目を通じてDSEP参加者にそれらの力が備わることを目指します。

科目一例

データサイエンス科目

既存の経営学部科目と並行して、データサイエンス科目を履修し、困難な課題を解決するスキルとその課題解決に必要なデータ分析手法を理解し、使いこなす力の獲得を目指します。



- データサイエンス・リテラシー科目
データサイエンスゼミナールI・II
- データサイエンス・ベーシック科目
経営科学概論、マーケティング・サイエンス、経営数学など

- データサイエンス・コア科目
意思決定論、統計・機械学習モデル、実務家と学ぶデータサイエンスなど

教員メッセージ



寺本 高
専門分野：消費者行動論

DSEP-Biz.では、スキーで言えば、いきなり「上級者コース」で滑って頂きます。1年生の春からゼミが始まり、最初からデータ解析コンペに参加してもらいます。学生は何とか滑ろうとする中から知恵を絞り、教員はもっと上手く滑れる方法や、怪我をしない滑り方を指導します。負荷は高いと思いますが、間違いなく成長を感じられるはずです！

4年間の学びのプロセス

1年次

プロジェクトベースの少人数ゼミナールで課題解決の力を養い、平行して講義を通じてその解決に必要な経営学とデータサイエンスの基礎を学びます。

- 全学教育科目・学部教育科目(科目例) 統計学I-A・II-A / 経営科学概論 / 経営学概論 / 会計学概論 / データサイエンスゼミナールI / 経営戦略論 / 経営組織論 / コーポレート・ファイナンス / マーケティング論 など

2年次

2年次春は1年生との共同プロジェクトでリーダーシップの育成を目指します。2年次秋からはゼミナールに加入し、経営における自らの専門領域の確立を目指します。平行して経営学、データサイエンスに関する幅広い知識やスキルを修得します。

- 学部教育科目(科目例) データサイエンスゼミナールII / 基礎ゼミナール / 経営数学 / マーケティング・サイエンス / 消費者行動論 / 流通論 / ファイナンシャル・リスク・マネジメント / 技術経営論 / 管理会計論I・II / 財務会計論I・II など

3年次

より高度な経営学、データサイエンスの理論、手法を学ぶと共に、インターン、企業との連携講義でより実践的な学修に取り組みます。ゼミナールでは、専門領域の問題解決に、身に付けたデータサイエンスの力を活用する力を身に付けます。

- 学部教育科目(科目例) ゼミナールI・II / 意思決定論 / 統計・機械学習モデル / 実務家と学ぶデータサイエンス / インターンシップ / 国際経営論I・II / International Business / ビジネスゲーム / 国際イノベーション・マネジメント論 / 国際市場戦略論 / 財務分析論 など

※5年一貫教育によって修士の学位を取得することを目指す学生は、学部4年次に大学院共通科目を最大22単位まで受講できます。
※学部3年次までに学部卒業単位の大半を修得した優秀な学生のみが、5年間で修士の学位を取得することができます。

» 予想される進路

データを用いてビジネスを展開する企業(コンサルティング、情報通信、金融、商社、研究機関、製造業など)への就職を想定しています。もしくは5年一貫教育を用いた大学院への進学を想定しています。

Q & A

- ① どのような人材の育成を目指していますか?
●●● 自らやデータサイエンティスト、AIが弾き出した分析結果をビジネスにどう活用するかを企業に提言し、ビジネスをリードできる人材を育成します。
- ② 経営学部DSEPは、経営学部の一般の教育プログラムと比べて、授業の取り方などはどのように異なりますか?
●●● ①データサイエンスを体系的に学ぶことができる必修科目を28単位(約14科目)以上を修得すること
②それらの科目が抽選になった場合に優先的に履修登録できること
③1年次から少人数ゼミナールに参加できることが異なっています。

» それ以外の質問についてはこちら



経営学部 DSEP

経営学部 DSEP

LBEEP

GBEEP

社会を学ぶ、社会で学ぶ。横国 × 法律、始まります。LBEEP、始動!

LBEEP

Lawcal Business Economics Education Program
法学・政治学を基礎とした複合的な学習プログラム

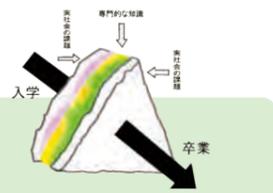
2021年4月、経済学部LBEEPを新設します。
LBEEPでは、法学・政治学をベースに経済学・経営学を学び、かつデータサイエンスの基礎も身に付け、エビデンスに基づく課題解決を担う人を育成します。国内外の企業・団体や行政機関において、社会や組織の仕組みの改善や、企業競争力強化に向けた提案をするなど、次世代創造社会(Society5.0)の先導役になりたい人、集まれ!
※LBEEP(エルビープ)のLawcalは、地域(local)と法(law)を組み合わせた造語です。



本プログラムの3つの特色

1 サンドイッチ教育

机上の知識の習得のみでは、そもそもなぜ特定の学問の知識を学ばなければならないのか腑に落ちないまま、受け身的に授業に参加する形となりかねません。現実課題に対応できる人となるために座学の前に、**まず実社会の課題を発見するところから入ります。その後、大学で専門的な知識を学び、再び現実社会の問題に向き合う形をとることで、社会で即戦力となる知識を習得します。**



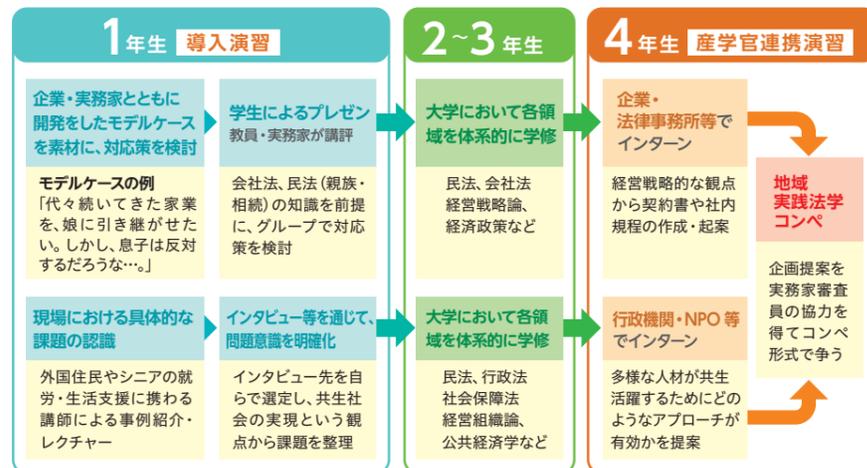
2 法学 × 経済・経営

法学・政治学の正確な知識を身につけるだけでなく、**経済学や経営学**など社会科学の知見から俯瞰的視点により思考する能力、エビデンスに基づく課題解決案を立案・論議するデータ分析能力、共同体・組織の中で問題解決のための制度変更等を実現するコミュニケーション能力を身につける教育を行います。

3 学内外機関との連携による実践型教育

県内外の**企業・NPO、神奈川県弁護士会**などとも連携し、セミナー、企業訪問、裁判傍聴などのほか、ある課題に対して学生たちが解決案を考え、それを学外の方が審査するようなコンペなども開催し、より実践的な教育を行います。

科目一例



教員メッセージ



西川 佳代
専門分野：民事手続法

LBEEPでの学びは、既存の「法学・政治学」を学ぶというものではありません。個々の学生が、実際に社会に存在している「課題」を見出し、現場の実践的経験、最先端の社会科学的知見、社会の将来的展望など様々な観点から分析・思考し、解決する方法を発見することをめざすものです。この力は今後のみなさんの人生を切り開く、一生モノのスキルとなるでしょう。私たち教員は、それを手助けするプログラムを用意して皆さんを待っています。



小林 誉明
専門分野：開発協力論

世界は課題に溢れている。しかも、解くのが難しい難題ばかりだ。次世代を担うみんなは、課題に向き合う使命を負っている。直面する課題が巨大すぎる?そんなときは、問題を「分解」すればいい。どんな難問も、問題の本質を的確に捉え、その原因を特定し、有効な選択肢を構想するための方法を身に付ければ、解決できないことはない。研究者として実務家として、僕はそう信じている。今、この瞬間も発生し続けているリアルな現実課題への「謎解き」に参画するソリューション・プロバイダーの一員になりたい学生を求めている。

予想される進路

法律・経済・経営の総合的素養に基づき問題を解決したり、新たな価値創造に貢献する人材を求める官公庁(立法・政策立案担当者、法制課担当者)、企業(法務担当、労務管理担当候補者)、法曹(裁判官・検察官・弁護士)、政策秘書、NPO法人、国際機関への就職、さらには大学院への進学(5年一貫教育)などが想定されています。

Q & A

- 普通の法学部とはどのように違うのですか?
●● LBEEPでは、少人数のサンドイッチ教育で実践力を見につけ、法学・政治学だけではなく経済学や経営学、そしてデータサイエンスも身につけた人材を育成したいと考え、そのようなカリキュラムを組み立てています。そこが従来の法学部との一番の違いです。
- LBEEPは、経済学部の一般の教育プログラムと比べて、授業の取り方などはどのように異なりますか? 特色ある科目としてはどんなものがありますか?
●● 課題発見などの方法論を学ぶ「課題発見の手法」や、外部の人の話なども聞いて問題意識を高める「導入演習」を1年生のときに受講し、3年生や4年生で「産学官実践演習」を受講できるのはLBEEP生のみです。実社会の課題を少人数教育で学ぶサンドイッチ教育のパンの部分がLBEEPの特色です。
- 産学官実践演習ってどのような科目ですか?
●● 企業や自治体などで実際に実務に携わっている方々とも連携しながら、実践的に知識を深めていくタイプの演習です。

それ以外の質問についてはこちら



グローバルに活躍するビジネスパーソンを育成

GBEEP

Global Business and Economics Education Program
経済学部・経営学部連携教育プログラム

2017年4月、経済学部と経営学部は共同で Global Business and Economics 教育プログラム (GBEEP) を新設しました。グローバルが進むビジネスの場で不可欠な「経済学と経営学の両方の専門性」と、「英語による実践的なコミュニケーション能力」を兼ね備え、国際的に展開するグローバル企業で、エキスパートとして活躍する人材の育成をめざします。



Global Business and Economics

本プログラムの3つの特色

1 2つの専門性

経済学に基づくマクロ的な分析能力と統計処理能力、経営学に基づく組織・戦略マネジメント能力、会計・財務分析能力の2つの専門性を修得します。2つの専門領域を学ぶため、卒業に必要な単位数は132単位以上で、通常のプログラム(124単位以上)よりも多く設定されています。

2 英語による専門教育

GBE (Global Business and Economics) 科目として英語による専門科目を充実させています。経済学・経営学のそれぞれで GBE 科目を履修し、ビジネスの場で使える英語力を身につけます。また、英語での実践的な課題解決能力を育成する課題プロジェクト演習も設定されています。

3 実践的な国際交流教育

海外学修科目を卒業に必要な単位とし、実践的な国際交流教育が用意されています。海外の協定大学等への留学、欧州やアジアでの現地学生との英語討論会、海外の大学でのサマースクールへの参加を通じて、英語によるコミュニケーション能力の飛躍的な向上をめざします。

※経済学を主専攻とした場合は経営学を副専攻とし、経営学を主専攻とした場合は経済学を副専攻とします。

科目一例

- **課題プロジェクト演習** 少人数制の授業を通して、「テーマの理解」「資料・分析・整理」「論理構成力」「プレゼンテーション」「ディスカッション」「コミュニケーション」「マネジメント」の7項目の「問題解決能力」獲得をめざします。各学生による目標設定、学生と教員による中間評価、最終評価を行います。授業の多くは英語で行われます。

2020年度に開講されている課題プロジェクト演習科目…… Economic Theory、Applied Economics、International Economic Policy、The Japanese and International Economies、Public Policy、Speech and Debate on Economic Issues、途上国経済、現代アジア経済史、地域経済、ゲーム理論

- **アジアグローバル経営基礎** 世界で活躍しているビジネスパーソンから英語でレクチャーを受けます。アジアに根ざしたグローバル経営に求められる国際理解と英語コミュニケーション能力に加えて、マネジメント概念についての基礎的な専門知識・能力を獲得します。

教員メッセージ



Craig Parsons
担当科目：
International Economics

GBEEP is the perfect choice for those interested in a career with global aspirations. International Economics is the application of micro-economic theory to global trade. Together with the practical tools one will learn with our partners in Business Administration, GBEEP graduates are destined for success!

4年間の学びのプロセス

1年次

経済学部入学者は経済学主専攻、経営学部入学者は経営学主専攻として、両者ともに経済学と経営学の基礎を学びます。学部導入科目を履修して、大学の学びで必要となるリテラシーを身につけます。

専門基礎科目 (科目例)

ミクロ経済学入門/マクロ経済学入門/グローバル・エコノミー入門/経営学概論/会計学概論/経営科学概論

2年次

主専攻・副専攻のそれぞれの基幹となる科目を履修し、基礎を固めます。また、GBE (Global Business and Economics) 科目を履修し、実践的英語能力を身につけます。

専門基幹科目 (科目例)

数理統計/計量経済学/International Economics/Global Economy/ビジネス・エコノミクス/財務会計論I・II/管理会計論I・II/マーケティング論



3・4年次

主専攻に重きをおきながら、経済学・経営学の応用科目を学修し、専門知識を高めていきます。2年次に引き続き、GBE 科目を通して、英語のコミュニケーション能力を高めます。希望者はゼミナールに所属し専門性を高めることができます。

専門応用科目 (科目例)

途上国経済/比較農業政策/金融論/国際貿易政策/International Trade Policy/Statistical Theory and Application/イノベーション・マネジメント論/国際市場戦略論/International Business



Q & A

- 1 GBEEP は、経済学部と経営学部の一般の教育プログラムと比べて、授業の取り方などどのように異なりますか？
●● GBEEP では以下の4点で通常の教育プログラムと異なります。①経済学と経営学の双方の科目を修得すること、②海外学習が必修になっていること、③英語による授業科目を10単位(5科目)以上修得すること、そして④卒業までに132単位を修得すること(通常の教育プログラムは124単位)。
- 2 卒業後の進路はどのように想定されていますか？
●● グローバルに事業展開する日本企業(製造業・総合商社・金融機関など)、外資系企業、国際機関職員などへの就職を想定しています。また、国内外の大学院に進学する学生も予想されます。

▶▶▶ それ以外の質問についてはこちら



入試について

経済学部 DSEP

本プログラムが求める学生像

市場システム、経済・社会制度等を学び、データサイエンスの手法に基づいて、現実の経済・社会が抱える諸問題の解決に挑戦したい学生を求めます。

募集人員

経済学部 DSEP (DSEP-Econ.) 合計	前期日程	後期日程
10	5	5

選抜方法

一般選抜において、本プログラムを志望する受験生の中から選抜を行います。なお、選抜の結果、一般プログラムの合格者となる場合があります。

経営学部 DSEP

本プログラムが求める学生像

数理的思考を用いてビジネスにおける課題解決に貢献したい学生を求めます。

募集人員

経営学部 DSEP (DSEP-Biz.) 合計	前期日程	後期日程
10	7	3

選抜方法

一般選抜において、本プログラムを志望する受験生の中から選抜を行います。なお、選抜の結果、一般プログラムの合格者となる場合があります。

LBEEP

本プログラムが求める学生像

リアルな現場の課題に立ち向かう資質を備えようという強い意欲を持つ学生。少人数教育のなかで能動的に学習したい学生。将来、社会において、法学・政治学を土台として、経済学、経営学、データサイエンスといった幅広い知見を積極的に活用して活躍することを志す学生を求めます。

募集人員

経済学部・経済学科 LBEEP 合計	前期日程	後期日程
10	10	募集なし

選抜方法

一般選抜において、本プログラムを志望する受験生の中から選抜を行います。なお、選抜の結果、一般プログラムの合格者となる場合があります。

GBEEP

本プログラムが求める学生像

経済学と経営学の両方を学ぼうという強い意欲を持つ学生。数学と英語によるコミュニケーション能力に秀でた学生。その上で、将来グローバル・ビジネスの場でエキスパートとして活躍する学生を求めます。

募集人員

合計	経済学部	経営学部
30	15	15

選抜方法

総合型選抜により選抜を行います。

経済学を主専攻とした方は経済学部の「総合型選抜」を、経営学を主専攻とした方は経営学部の「総合型選抜」を受験してください。

なお、外国学校出身者選抜（経済学部）、帰国生徒選抜（経営学部）、YGEP-N1（私費外国人留学生入試）の合格者からも数名の参加を予定しています。

入学者の選抜は、第1次選抜、第2次選抜及び最終選抜の3段階で行います。

【1次選抜】外部英語試験の結果による書類選抜（志願者が募集人員の3倍を超えた場合）

【2次選抜】面接試験

【最終選抜】大学入学共通テスト（数学、外国語）

詳細は各学部の総合型選抜募集要項をご覧ください。募集要項は本学 Web サイトでダウンロードできます。

YNU YOKOHAMA
National University

経済学部・経営学部連携教育プログラム

横浜国立大学経済学部 経済学務係・経営学部 経営学務係

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-3 (経済学部)、79-4 (経営学部)

T E L | 経済学部 045-339-3508, 3509
経営学部 045-339-3663, 3664

E-mail | 経済学部 int.keizai@ynu.ac.jp
経営学部 int.keiei@ynu.ac.jp

U R L | 経済学部 <https://www.econ.ynu.ac.jp/>
経営学部 <https://www.cba.ynu.ac.jp/>

DSEP・LBEEP・GBEEP 特設サイト | <https://www.cecba.ynu.ac.jp/>

